

編集後記

本日は7月18日、海の日です。現在コロナの第7波が猛威を振るっていますが、この第7波では本当に目の前の身近な方が感染し、感染爆発のたびに感染力は増しているようにも感じます。多くの医療従事者が感染し、濃厚接触者も拡大して、無症状者からのPCR陽性で通常の医療が進まなくなってきています。しかし、この連休前の週末から鉄道、飛行機、駅や空港では人があふれておりました。闇雲に手綱を緩めるわけにはいかなそうですが、行動規制や人との交流制限はもう限界で、さりとて全くコロナを単なる夏風邪同様に無視することもできず本当に悩ましい限りです。難しいとは思いますが、筋の通った、ぶれない政策を期待したいと思います。

さて本号の特集は「眼内レンズ度数計算アップデート」、それに続き総説は「緑内障点眼薬の現状と今後

の展望」「黄斑上膜の手術適応」と明日からの臨床に直結する話題が中心です。専門ではありませんが、清水公也教授の教室で育った私には、特集の各話題、すなわち「眼内レンズ度数計算式の種類と術後屈折誤差の要因」「長・短眼軸長眼への対応」「屈折矯正手術後眼への対応」「屈折誤差への対応(術中計測・ピギーバック法)」が、屈折矯正手術の意味合いが強い現在の白内障手術でいかに重要か大変よく理解できます。冒頭で須藤先生が述べられているように、どんなに最高の白内障手術を受けようともレンズの度数が患者の希望と異なると術後の期待が壊れるだけではなく、不信感さえ生ずる可能性があります。ぜひ、現在現場の中心で手術をされている先生には必読していただきたいと思います。

(石川 均・記)

編集：後藤 浩・飯田知弘・雑賀司珠也・門之園一明・石川 均・根岸一乃・福地健郎
編集顧問：所 敬・小口芳久・白井正彦・澤 充・谷原秀信・岸 章治・三村 治・飯島裕幸・
坪田一男・富田剛司

「眼 科」 第64巻 第8号 8月号

2022年8月5日発行(毎月1回5日発行)

定価 3,080 円(本体 2,800 円+税 10%)

年間講読料金

定価 46,310 円(本体 42,100 円+税 10%)

[年間 13 冊(臨時増刊号を含む)の誌代]

[年間予約購読者に限り送料無料]

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03 (3811) 7165 [編集室直通]

Tel 03 (3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 横山印刷株式会社 Tel 03 (3622) 6161

広告申込先 福田商店 Tel 06 (6941) 5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(TEL: 03-5244-5088, FAX: 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。